

## 晴れ着に対するイメージとその構造

奈良女大家政 ○中川早苗 樋泉俣子 聖母女学院短大 長井満里子

目的 振袖、袴姿、ニューキモノ、ドレス、浴衣の5つの晴れ着に女子大生がどのようなイメージを持っているのか、又、そのイメージがどのような構造になっているのかを明らかにするためにSD法による測定を行い検討した。

方法 調査の概要は第1報の通りである。本報では、それぞれの、晴れ着に対するイメージ及びその構造を明らかにするために20対の形容詞対を用い5段階によって評定させた。得られたデータを得点化し平均値を算出してイメージプロフィールを求め、それぞれのイメージの差異を明らかにした。次に尺度間相関行列をもとに因子分析を行い、抽出された主要な因子をもとに、女子学生の晴れ着に対するイメージの構造を明らかにした。又、振袖派、ニューキモノ派、ドレス派の3タイプによるイメージの差異をクロス集計をもとに検討した。

結果 それぞれの晴れ着のイメージプロフィールから、振袖に対しては重厚で静的で、あらたまったイメージ、袴姿は古典的で落ち着いたイメージ、ニューキモノは現代的で大胆な個性的なイメージ、ドレスは華やかで明るく、浴衣に対しては軽快で親しみやすいなどのイメージを持っていることが明らかになった。因子分析の結果、主要な因子として振袖では4因子、袴姿では5因子、ニューキモノでは5因子、ドレスでは6因子、浴衣では5因子が抽出された。3タイプとのクロス集計結果からは、振袖派は振袖に対し「繊細」で「快い」、ニューキモノ派はニューキモノを「上品な」、ドレス派はドレスに「親しみやすい」「若々しい」というイメージをだいており、タイプ間に差異がみられた。